

RESASプロジェクトチームによる 施策立案報告書



地域経済分析システム“RESAS”を活用した 施策立案を目指して

▷当市の財政の硬直化を鑑みて、優先的かつ効果的な施策の立案のため、エビデンスに基づいた政策立案(EBPM)の実現が必要である。また、角田市第6次長期総合計画の策定を控えており、RESASを活用し、当市の現状や取り巻く環境などを明らかにすることで、急速に変化する社会の中、限られた資源を有効に活用し、信頼ある行政の展開を目指す取り組みである。

RESASプロジェクトチーム(PT)を結成

RESASの活用をすすめるにあたって、「RESASを活用した施策立案チーム」が結成された。

【参加メンバー】

- ▷佐藤克宏（角田市教育委員会生涯学習課）
- ▷木村 美沙（会計課）
- ▷山田 早夏（総務部 税務課）
- ▷大沼 千愛（市民福祉部 地域包括支援センター）
- ▷菊地 浩文（産業建設部 商工観光課）
- ▷八巻 卓（産業建設部 都市整備課）

およそ入庁10年以下の若手かつ多様な所属から構成された。



RESASプロジェクトチームの動き



地域経済分析システムRESAS等による
角田市の現状分析から導き出した強み・弱み・機会・脅威

強み(内的要因)

- A 地域経済をけん引する2次産業...RESAS
- B 高水準の農業の出荷額...RESAS
- C ふるさと納税寄付額県内トップ
- D “JAXA”や誘致企業など研究技術製造業の存在
- E 道の駅開業等による交流人口の拡大

弱み(内的要因)

- a 生産人口の縮小と老年人口拡大...RESAS
高校卒業後の転出や高齢化による死亡者数の増加が要因
- b 地域で生み出した所得や消費・投資の流出...RESAS
- c 農業経営体産出額の低調（全国比45%）...RESAS
- d 製造業や小売業の事業所数減少傾向...RESAS
- e 児童数減少による市内学校の統廃合

機会(外的要因)

- 1 SDGsを踏まえた持続的発展
- 2 技術革新による地域課題解決への期待
- 3 ICTやSNSによるコミュニケーションの変化
- 4 テレワークや多拠点居住など暮らし方の変化

脅威(外的要因)

- I 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- II 技術革新による産業構造の変化
- III 大規模災害や感染症問題の発生
- IV 財政制約の基での施策推進

生産年齢人口縮小による地域経済弱体化

なぜ生産年齢人口減少が激しいのか…

◎角田市に住み続けたいと思っていない若者たち

- ・若い角田市在住者の定住意識が低い。（ずっと住み続けたい10代6.7%、20代15.6%）
- ・若年層の自己肯定感や地域・社会への関心が全国平均よりも低い。
- ・人口減少による「生活サービスの縮小」、「就業機会の減少」、「生活利便性の低下」「地域の魅力（コミュニティの機能）の低下」が懸念される。

◎若者たちの高等学校や大学等、進学による流出

- ・角田高校の受験倍率低下（H28：1.4→R3：0.74）が顕著で、卒業生の進学希望者は9割に近い。
- ・角田市在住高校生の就職希望者のうち、市内就職希望は全体の約13%。

◎若者が働きたい職場がない

- ・地元での就業意識が高い傾向にあるが、選択肢の少なさや頼れる関係性がないことに不安を感じている。

クロスSWOT分析

要因分析から、強み・弱み・機会・脅威を踏まえ、環境変化に対応した既存資源の最適活用を図る

強み(内的要因)

- A 地域経済をけん引する2次産業...RESAS
- B 高水準の農業の出荷額...RESAS
- C ふるさと納税寄付額県内トップ
- D “JAXA”など研究技術機関の存在
- E 道の駅開業等による交流人口の拡大

弱み(内的要因)

- a 生産人口の縮小と老年人口拡大...RESAS
- b 所得や消費・投資の流出...RESAS
- c 農業経営体産出額の低調（全国比45%）...RESAS
- d 製造業や小売業の事業所数減少傾向...RESAS
- e 児童数減少による市内学校の統廃合

機会(外的要因)

- 1 SDGsを踏まえた持続的発展
- 2 技術革新による地域課題解決への期待
- 3 ICTやSNSによるコミュニケーションの変化
- 4 テレワークや多拠点居住など働き方暮らし方の変化

積極的戦略

- C.E-3 角田市に囲い込み、関係人口戦略
- B-2.4 新しい付加価値創造
- A.D-1 オープンイノベーションによる産業基盤創出

改善戦略

- a-2.4 課題解決の現場として外部事業流入促進
- c.d-2.3 既存産業のアップデート
- a.e-1.3 教育の魅力化
- d.e-2.3 公共不動産及び空き家利活用

脅威(外的要因)

- I 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- II 技術革新による産業構造の変化
- III 大規模災害や感染症問題の発生
- IV 財政制約の基での施策推進

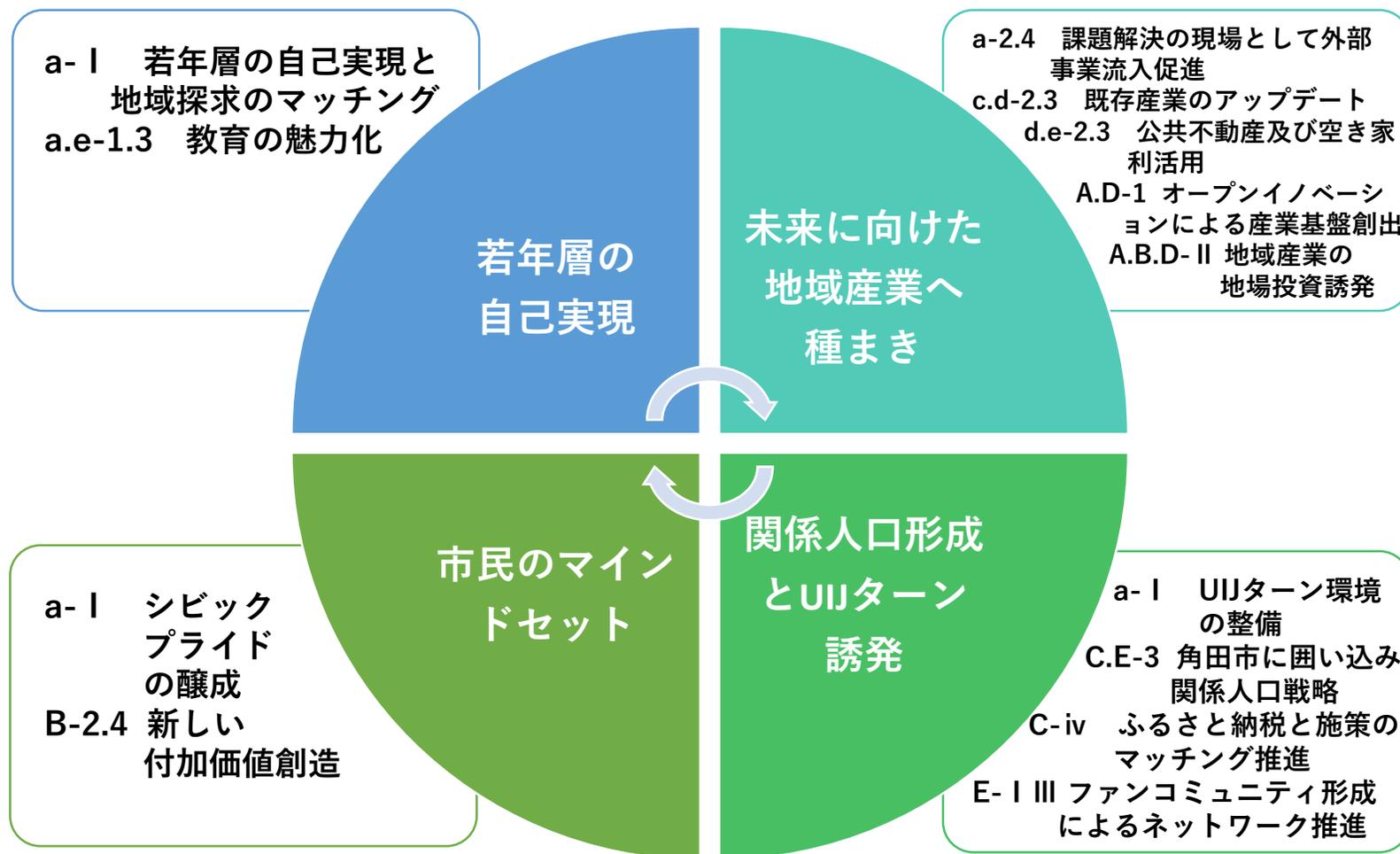
差別化戦略

- A.B.D- II 地域産業の地場投資誘発
- C-IV ふるさと納税と施策のマッチング推進
- E- I III ファンコミュニティ形成によるネットワーク推進

致命傷回避

- a- I 若年層の自己実現と地域探求のマッチング
- a- I シビックプライドの醸成
- a- I UIターン環境の整備

若年層の満足度・定住意向上昇による、地域経済活性化



角田市の市民力

自主的・自発的に地域課題の解決に取り組もうとする力

新たな地域自治活動
協働のまちづくり
多様な市民活動・プロジェクト
創業スプラウト
かくだワークショップ
かく大 学 など

新たな
主体的市民

主体的市民

課題解決等に挑戦
当事者意識
経済的付加価値

応援的市民

経済（寄付や購買）
マンパワー
スキル

ふるさと納税寄付者
交流人口100万人
市外からの通勤者
姉妹都市・友好都市
角田市出身市外在住者
角田市のファン など

市民を拡張する

(角田市民 ≠ 住民登録)

<積極的戦略>

■角田市の強み

- C ふるさと納税寄付額県内トップ
- E 道の駅開業等による交流人口の拡大



■角田市の機会（追い風）

- 3 ICTやSNSによるコミュニケーションの変化
- 4 テレワークや多拠点居住など働き方暮らし方の変化

角田市版関係人口創出事業

～角田市外からでも共に角田市の活性化に関わる仕組みと応援人口の創出～

地域の課題

- ・生産年齢人口の減少により過疎や少子高齢化、地域経済の弱体化による地域課題の顕在化
- ・地域の担い手不足
- ・角田市への愛着の低下

関係人口に期待する役割

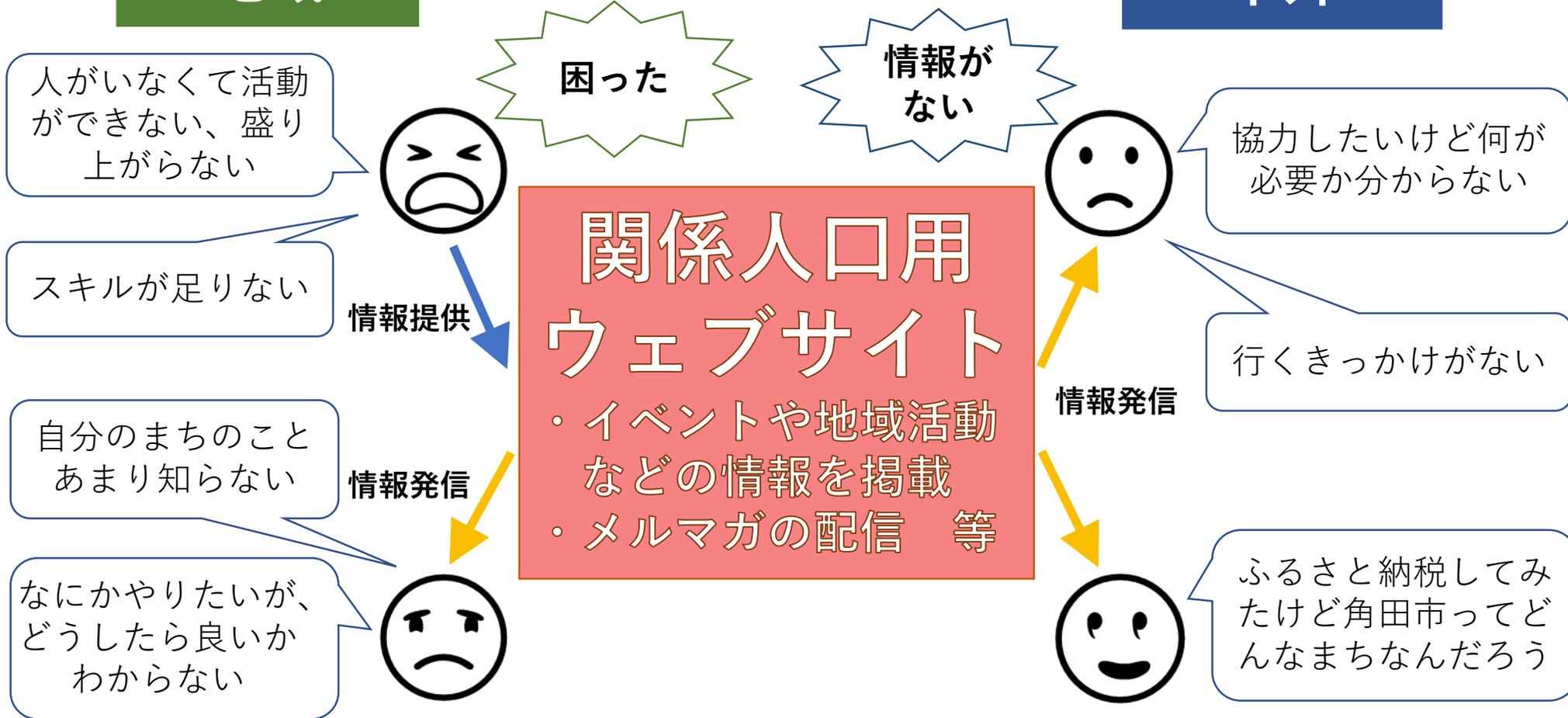
- ・マンパワーやスキル、経済（寄付等含む）をもって地域課題の解決に寄与
- ・地域住民と交流することで、地域の新たな魅力の発見や自信などの変化を与える

目標

- ・角田市の地域課題の解決及び地域経済の活性化に対して自律的で質の高い取り組みに発展
- ・移住、定住の促進
- ・角田市民の地域への誇りの醸成

地域

市外



情報を集め、必要な人に発信し、マッチングする仕組みをつくる

地域

活動への参加人数が増え、盛り上がる

担い手不足が解消される

外からの意見や技術を取り入れることで活動の質が上がる

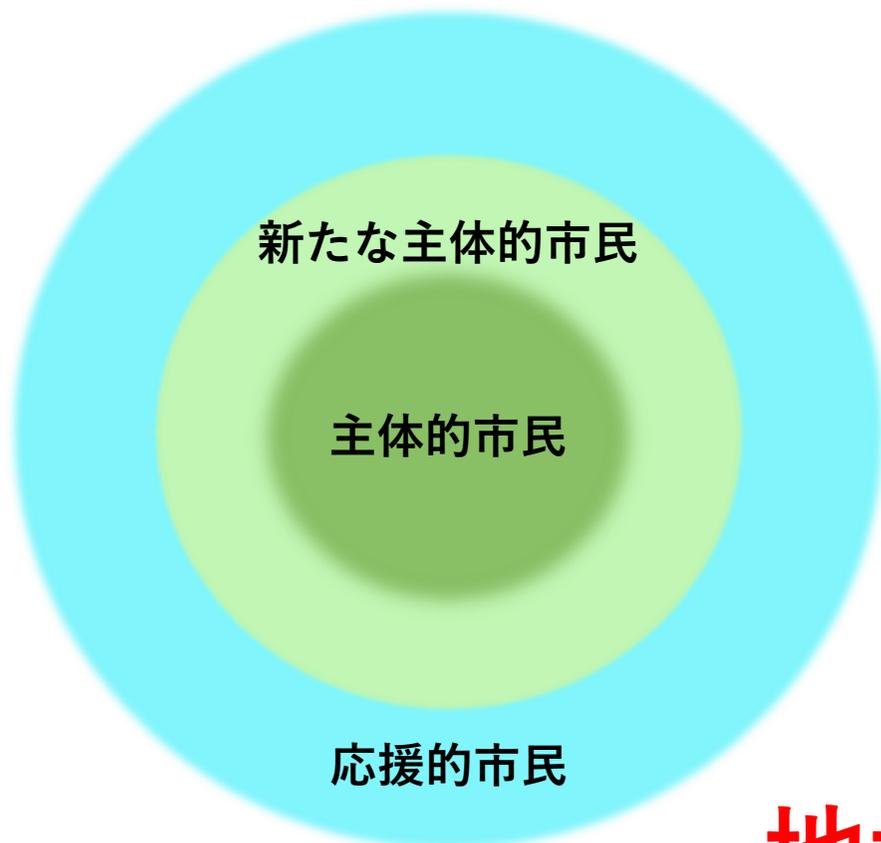
市民が活動に参加することで当事者意識が生まれ、誇りや愛着を感じるようになる

定住意向が上昇する



市民力の向上

施策による効果



市外

角田市を知る、訪れるきっかけができる

活動に参加することでやりがいや角田市に対する愛着が生まれ、継続的に関わる人が増える

持っているスキルを生かせる

就職や移住のきっかけになる



地域の外から関わる人の増加



施策内容

【施策名】

角田市版関係人口創出事業 ～角田市外からでも共に角田市の活性化に関わる仕組みと応援人口の創出～

【対象者】

角田市在住者及び角田市に関心のある市外在住者

【目的】

角田市の課題である生産年齢人口の減少と高齢化による地域の担い手不足、角田市への誇りの空洞化の解消を目的として行う事業である。

角田市在住者及び角田市に関心のある市外在住者が共に角田市での活動に参加することで角田市に活気生まれ、角田市民が主体的に地域に貢献しようとする力や角田市に対する誇りが育まれ、定住意向の上昇が見込まれる。また、市外に出た場合も新たな関係人口となり継続的に角田市に貢献してもらうことを目的とする。市外在住者については、地域や地域の人々と多様に関わり、継続的なつながりを持ってもらうことで移住のきっかけになったり、生産年齢人口の減少により不足する地域の担い手としての力を補う役割になることが見込まれる。

【概要】

インターネット上に関係人口用のウェブサイトを作成し、角田市の情報を掲載する。

また、会員登録をした者に対して、メールマガジン等でイベント参加情報やクーポン等を配信し、角田市に来てもらうきっかけを作る。

その他、会員登録した者が地域の活動に参加したり、角田市の企業や団体が求めるスキルを提供できるよう市内在住者と市外在住者のマッチングを行う。

参加者に対して地元貢献意識を活性化させ、活動後に梅おにぎりや米・野菜の配布等角田市ならではのおもてなしをし、活動へのやりがいや角田市への愛着を深めてもらうことでリピーターを増やす。

角田市らしく親しみやすい形式にするため、五城目町シェアビレッジの「村民」のような呼称を設けたい。例えば、角田市を星に見たてて「角田人」やロケットに見たてて「クルー」などはどうか。

【掲載内容案】

角田市の求人情報・企業情報、田植え・稲刈り・田んぼアート等への参加者募集情報、イベント情報、ふるさと納税、新規プロジェクト設立の際のメンバー募集、移住・定住に関する情報 等

【周知方法】

市内在住者には広報や広告、ポスター等で会員登録を促す。市外在住者に対しては、姉妹都市・友好都市・銀河連邦等で関係する者への周知の他、ふるさと納税の申し込み画面で同時に登録できたり、返戻品にお知らせを入れる等、ふるさと納税をきっかけに会員登録できる仕組みをつくりたい。

【運営方法】

行政と市民と登録者の間を受け持つ中間組織を創設したい。

先行事例では、①行政の内部に創設するケース②NPOや一般社団法人などの地域側の法人組織が担うケース③行政でもNPOなどの法人でもない地域住民組織（まちづくり協議会など）が担うケースの3パターンとなっていた。②または③のパターンで運営できればと考えている。

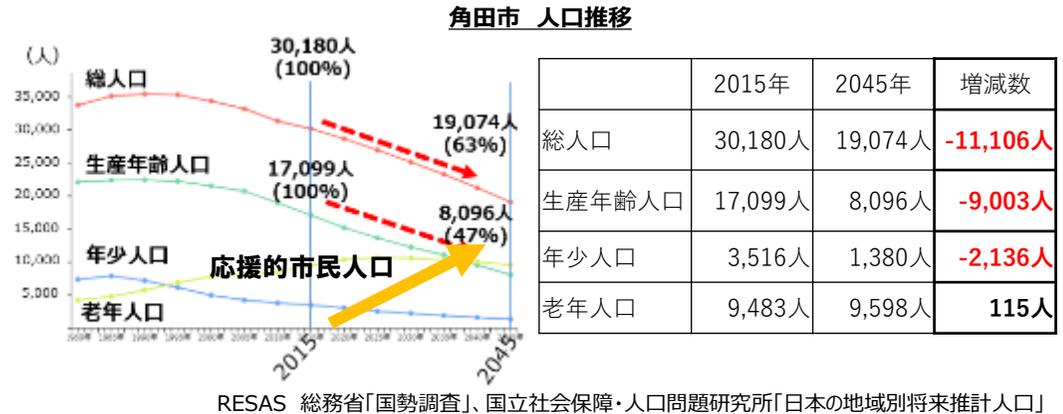
施策による効果

- ・角田市に興味がある者へメールマガジン等で直接情報を発信することにより活動に参加する関係人口の増加が見込まれる。
- ・角田市民が活動に参加することで当事者意識が生まれ、角田市に対し誇りや愛着を感じるようになる。
- ・登録制ウェブサイトの作成により、角田市に関心のある人を数値化できる。

【登録目標人数】

初年度：市内在住者200人、市外在住者170人
 開設から10年後：市内在住者2,000人、市外在住者1,700人
 （角田市総人口増減数より算出 11,106人/30年≒370人/年）

※（参考）南砺市 2016年10月事業開始
 2018年3月末での登録者：市外在住者500人超
 2020年12月末での登録者：市外在住者850人超
 2060年までに登録者目標人数：市外在住者5,000人



影響や展開

- 影響
 - ・角田市に対し誇りや愛着を感じることで、主体的に地域に貢献しようとする力が育まれる。
 - ・活動に参加する人数が増えることで、角田市が盛り上がり、定住したいと思う人が増える。
 - ・角田市に関わることで移住のきっかけになる。
- 展開
 - ・地域資源を活用した事業の創出
 - ・雇用の創出
 - ・地域の自然資源の保全
 - ・関係人口を地域に担い手としてマッチング

主体的市民を拡大する

(高校生が呼び覚ます地域の市民力)

<致命傷回避策>

■角田市の弱み

- a 生産年齢人口の縮小と老年人口拡大...RESAS
- b 所得や消費・投資の流出...RESAS
- d 製造業や小売業の事業所数減少傾向...RESAS



■角田市の脅威（向かい風）

- I 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- IV 財政制約の基での施策推進

角田市版高校魅力化と地域連携

～高校生と地域が協働したプロジェクトまたは地域ビジネスの創出事業～

地域の課題

- ・若者世代の定住意識が低い
- ・自己肯定感、社会・地元地域への関心が低い
- ・地元企業の情報がわからない

本施策に期待する役割

- ・角田市のこと、地域のことを知る機会の増加
- ・若い世代の新たな発想による地域課題解決
- ・成功体験や地域の大人から認められることによる自己肯定感の向上

目 標

- ・若い世代の定住意識の向上
- ・角田市への愛着、郷土愛の醸成
- ・若い世代の主体的市民の拡大
- ・地元企業への就職率の向上

若い世代

社会・地元地域への関心がない

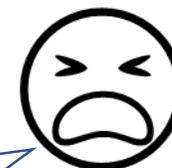
定住意識が低い



自己肯定感が低い

地域

地域の担い手不足



若い世代との接点の減少

高校生と地域が協働したプロジェクト
地域ビジネス創出事業

角田のこと
地域のことを知り愛着が持てる

角田から一旦離れてもまた戻ってきたい



達成感、成長を感じられる

地域を知ってもらえることで地元就職につながる

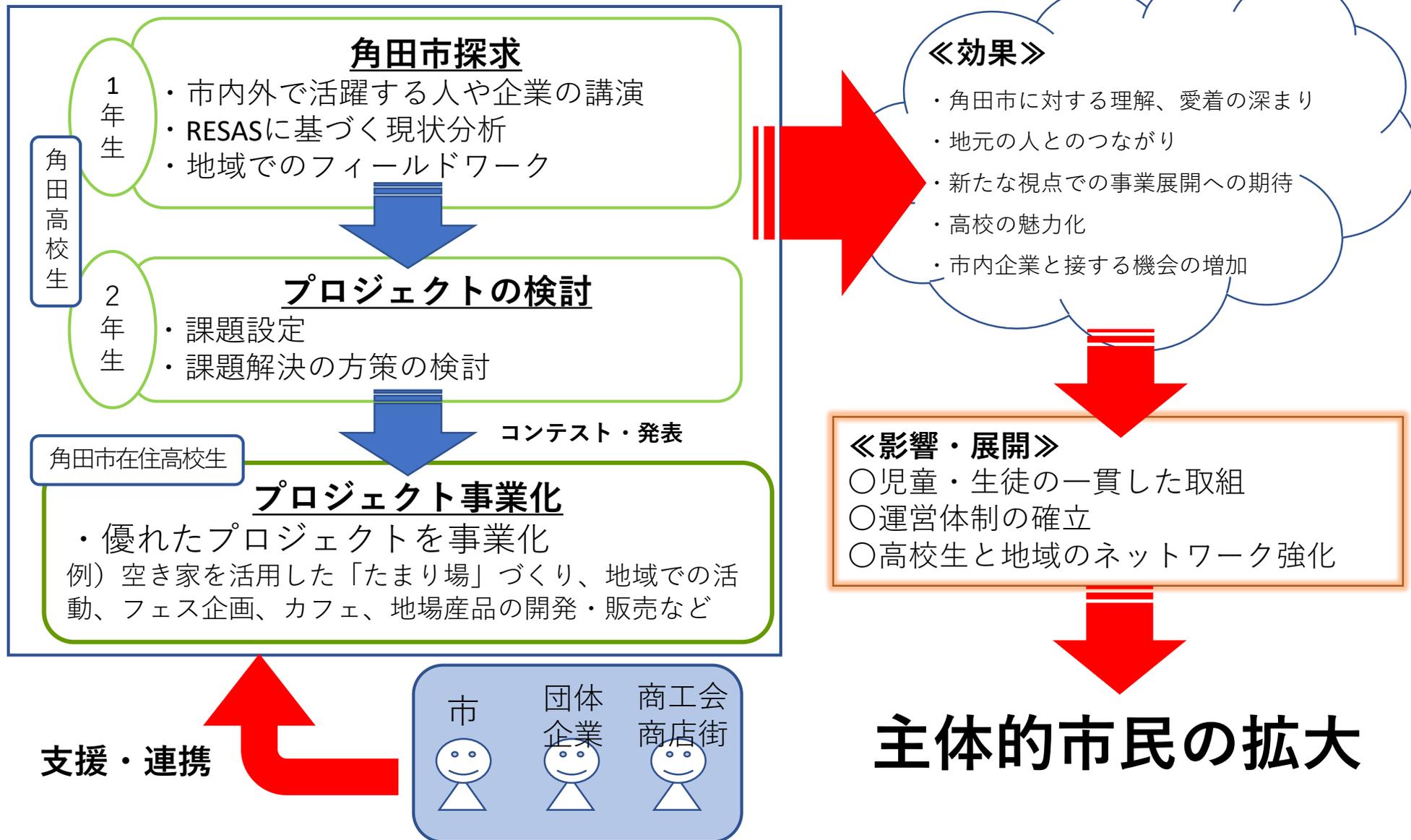
若い世代の発想を地域課題に活かせる



若い世代とのつながりができる

若い世代の角田市への愛着、郷土愛を醸成し、地元就職意識、定住意識を高め、かつ主体的な市民への拡大を目指す

施策内容と効果



施策内容

【施策名】

角田市版高校魅力化と地域連携 ～高校生と地域が協働したプロジェクトまたは地域ビジネスの創出事業～

【対象者】

角田高校生（角田市在住高校生）

【目的】

定住意識や地域への関心が低い角田市の若い世代に対して、角田市のことや各地域のことを知り、各地域が抱える課題等を解決していく過程を通じて、定住意識の向上、角田市への愛着や郷土愛、主体的市民の拡大、地元企業への就職率の向上等を目的に実施する。

進学等により大きく転出超過となる前の年代、高校生。その高校生と地域が協働したソーシャルビジネスや地域プロジェクトの創出を行うことで、高校生には「協働性」「主体性」などの成長実感をもたらし、地域にはそのエネルギーが伝播する循環を生み出す。

【概要】

角田市内外で活躍する人・企業より講演いただいたり、地域と関わったりすることで、角田市の持つポテンシャルや角田市の良さについて知り、高校生が考えたソーシャルビジネスや地域プロジェクトの提案を地域、企業等が応援し支えることで、地域への関心や愛着を育み、主体的な市民の拡大や定住意識の向上を図る。

①角田高校においての実施内容

- ・ソーシャルビジネスや地域プロジェクトの施策立案を角田高校のカリキュラムに組み込み、授業の一環として事業実施。
※総合的な探求の時間において「角高夢Project」として地域課題や取組についての学習が行われている。
- ・1年生：角田市について知る（角田市内外で活躍する人・企業より講演+RESASに基づく角田市の現状分析）、地域でのフィールドワーク
- ・2年生：課題設定、課題解決の方策の検討、**コンテスト形式**で発表



②角田市においての実施内容

- ・コンテストにおいて優れた課題解決やプロジェクト内容について、市において事業化。
- ・高校生が実施主体となって事業を展開し、市、商工会、商店街、企業等各種団体が支援する。

プロジェクト例：空き家を活用した「たまり場」づくり、地域での活動、フェス企画、カフェ、地場産品の開発・販売

施策による効果

- ・ 高校生の角田市に対する理解が深まることで、愛着も深まる。
- ・ 現場に出向くことで、高校生と地元の人とのつながりが生まれる。
- ・ 市内企業と接する機会が増え、これまでより多くの企業情報を知ることができる。
- ・ 高校生による新たな視点での事業展開が期待できる。
- ・ 角田高校の魅力化による進学希望者の増加。

効果が及ぼす影響や展開

- 影響
 - ・ 自己肯定感が高まり、愛着が深まることによって、進学等で角田市から一時離れた人たちのUターン率の増加や関係人口として関心を持ち続けてくれることが期待できる。
 - ・ 高校生の地域や社会への関心が高まり、地域行事へ関わる機会が増える。
 - ・ TV等でのマスコミの露出が増え、角田市の認知度の向上。
 - ・ 地元企業への就職率の向上
 - ・ 新たな事業実施や起業を志すきっかけとなる。
 - ・ 高校生の主体的な活動が市内の大人たちに影響し、活性化される。
- 展開
 - ・ 小中学校から地域を学ぶ機会を創ることで、高校まで一貫した取組が期待できる
 - ・ 高校生のプロジェクトを支えるうえで運営体制が確立され、より継続的な事業となる。
 - ・ コーディネーターが生まれ、高校生と地域のネットワークが強化される。

